

週間市場レポート (2022年6月27日~7月1日)

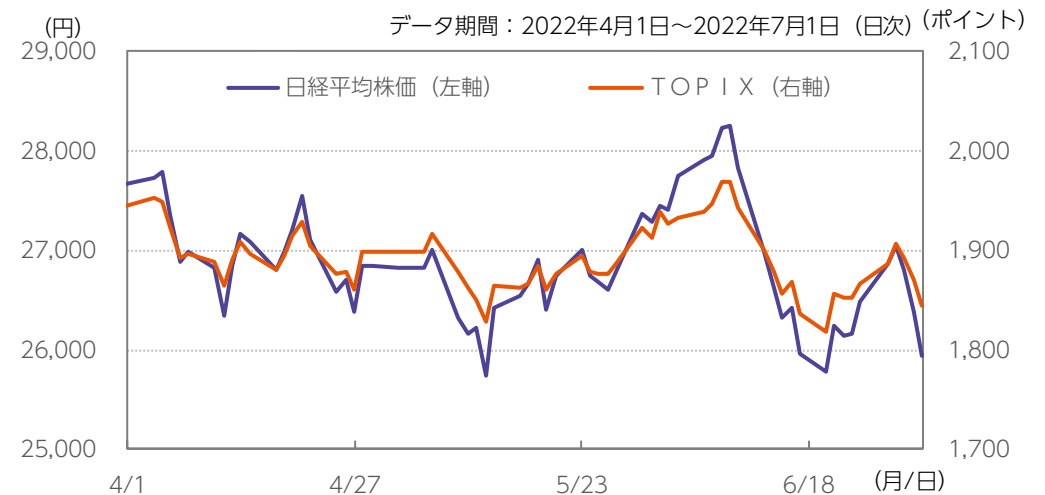
1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/6/24	先週末 2022/7/1	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		26,491.97	25,935.62	▲ 2.10 ↓
TOPIX (東証株価指数)		1,866.72	1,845.04	▲ 1.16 ↓
ダウ工業株30種平均 (ドル)		31,500.68	31,097.26	▲ 1.28 ↓
S&P500種指数		3,911.74	3,825.33	▲ 2.21 ↓
ナスダック総合指数		11,607.62	11,127.84	▲ 4.13 ↓
ユーロ・ストックス50指数		3,533.17	3,448.31	▲ 2.40 ↓
S&P/ASX300指数		6,557.22	6,517.52	▲ 0.61 ↓
上海総合指数		3,349.75	3,387.64	1.13 ↑
MSCI AC アジア (除く日本)*		840.72	828.34	▲ 1.47 ↓
東証REIT指数		1,914.46	1,945.55	1.62 ↑
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		798.63	793.80	▲ 0.60 ↓
ASX300 REIT 指数		1,391.50	1,347.00	▲ 3.20 ↓
グローバルREIT (除く日本)*		186.33	184.30	▲ 1.09 ↓
日本10年国債 (%)		0.230	0.226	▲ 0.004 ↓
米国10年国債 (%)		3.130	2.880	▲ 0.250 ↓
ドイツ10年国債 (%)		1.442	1.232	▲ 0.210 ↓
英国10年国債 (%)		2.302	2.086	▲ 0.216 ↓
ドル/円		135.23	135.21	▲ 0.01 ↓
ユーロ/円		142.79	140.99	▲ 1.26 ↓
英ポンド/円		165.82	163.58	▲ 1.35 ↓
豪ドル/円		93.90	92.19	▲ 1.82 ↓
フィラデルフィア半導体指数		2,718.47	2,458.46	▲ 9.56 ↓
WTI原油先物 (ドル)		107.62	108.43	0.75 ↑
CRB指数		298.55	291.83	▲ 2.25 ↓

2) 日本の株式・債券市場

≪ 株式 ≫

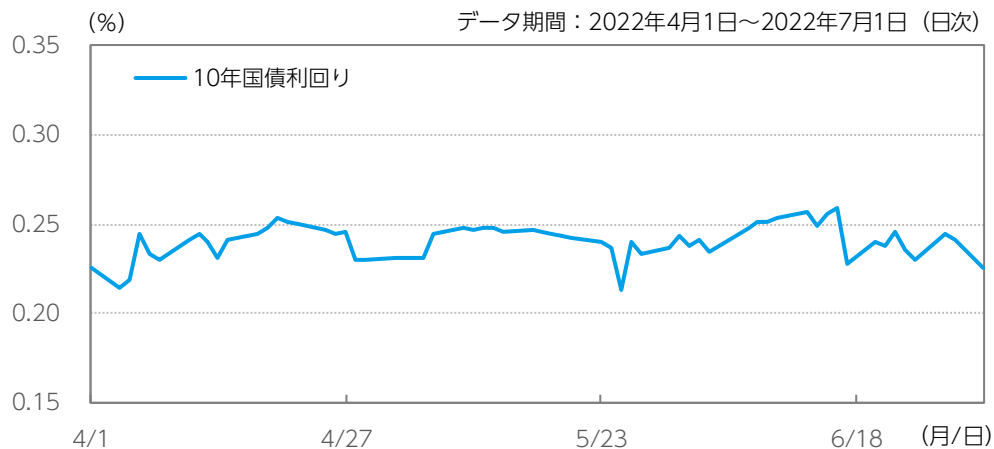
日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で下落しました。前週末の米国株式市場でハイテク株を中心に幅広い銘柄が買われた流れを受け、週前半は上昇し、28日の終値はおよそ20日ぶりに27,000円台を回復しました。その後は、米連邦準備制度理事会（FRB）高官の積極的な利上げ発言や低調な米経済指標が公表され、米国の急速な金融引き締めによる世界的な景気減速で、輸出関連を中心とする日本企業の業績が伸び悩むとの懸念が広がったことや、日銀短観で大企業製造業の景況感が2四半期連続で悪化したことを受け、週末まで続落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成
 ※現地通貨ベース * ▲はマイナスを表します。

《 債券 》

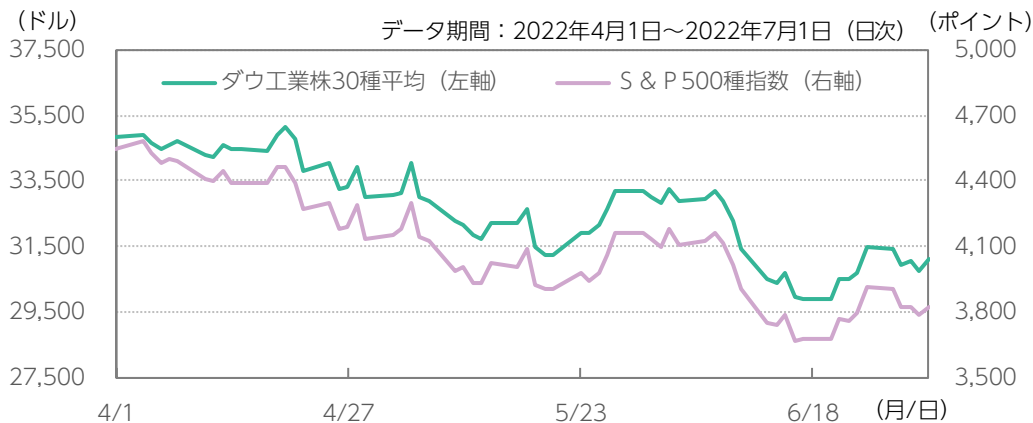
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で横ばいとなりました。前週末に発表された米国の住宅関連統計が改善し、米長期金利が上昇した流れを受け、週初は上昇したものの、先週公表された景況感などの経済指標が低調であり、米景気の減速懸念が高まると国内金利は週末まで低下し、週間では前週末比でほぼ横ばいとなりました。



3) 米国の株式市場

《 株式 》

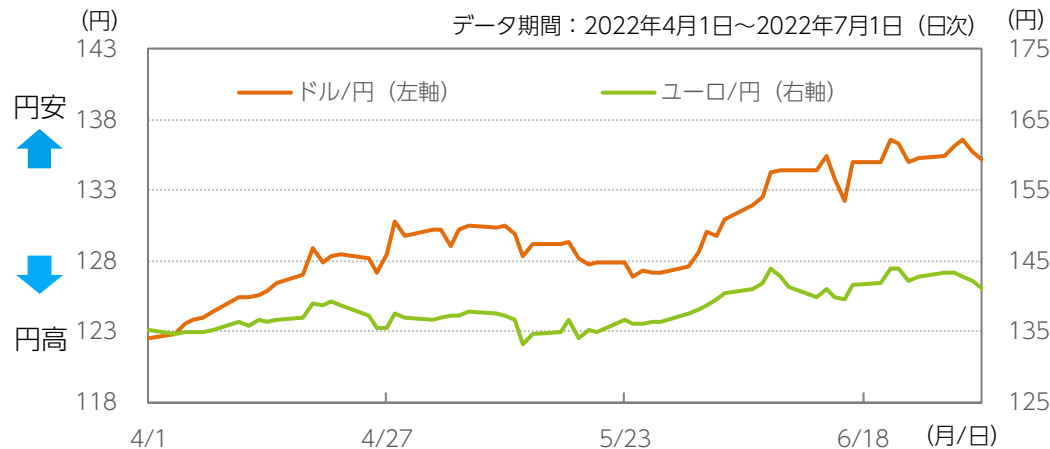
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落しました。6月の消費者信頼感指数が市場予想を下回るなど、軟調な経済指標の発表が相次ぎ、米景気が減速するとの懸念が高まり下落しました。週末に米サプライマネジメント協会（ISM）が公表した6月の製造業景況感指数が前月から大幅に低下し景気減速懸念から米長期金利が低下すると、ハイテク株を中心に買い戻され週末は上昇したものの、週間では前週末比で下落しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で横ばいとなりました。FRB高官が相次いで追加の利上げに積極的な姿勢を示したことから、日米の金融政策の方向性の違いが意識され、円売り米ドル買いが進行しました。週末にかけて、利上げにともなう米景気の減速懸念から米長期金利が低下すると、円買い米ドル売りが進み、週間では前週末比で横ばいとなりました。



5) 今週の見通しについて

主要国の急速な金融引き締めによる世界景気の減速懸念は根強く、先週の株式市場は、日米両市場ともに下落しました。

ニューヨーク連銀のウィリアムズ総裁は、インフレ抑制のためにさらなる利上げを支持し、7月の米連邦公開市場委員会（FOMC）でも0.75%の追加利上げの可能性があることを示唆しました。ウィリアムズ総裁は、『経済は堅調であり利上げにより米経済が景気後退に陥るリスクは小さい』との認識を示しているものの、急速な利上げにともない景気が減速するとの懸念は根強く、株式市場は引き続き不安定な値動きとなっています。

金融引き締めと景気の先行きへの警戒感が強まる中、今週の株式市場は、雇用関連などの主要経済指標や6月FOMC議事要旨を確認しながら、方向感を探ることとなりそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>